

長井の地の利を生かした、水も空気もいいわけですし、環境はもう抜群なわけですから、こういったところにも研究所、何か持ってきてもらいたいというようなことをお願いしたいなというふうに思います。ぜひ市長には決意を持ってこの長井市に東芝という名前を今後も残すという意味で、力強いお言葉いただきたいと思います。私たちも一生懸命頑張ってますので、よろしくをお願いします。

やはり、県の知事なんかも利用したり、または国会議員の先生方にも一緒になって長井の地に企業を存続していただけるように陳情していただきたいと思います。

○蒲生光男議長 赤間議員、時間です。

○1番 赤間泰広議員 よろしくをお願いします。

○蒲生光男議長 時間です。

○1番 赤間泰広議員 終わります。

○蒲生光男議長 ご苦労さま。

江口忠博議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位4番、議席番号3番、江口忠博議員。

(3番江口忠博議員登壇)

○3番 江口忠博議員 お疲れさまでございます。

まず、私、質問に入る前に、去る7月15日に市内最上川河川敷で起きた複数の少年たちによる暴行事件、これによって大けがを負わされ、先月、8月10日に亡くなられた横山湧さんに対して、心からご冥福をお祈りし、またご遺族の方々、ご家族の方々に対して心からお悔やみを申し上げたいと存じます。

このたびの事件は、複数の加害者が横山さん1人に暴力を加え、瀕死の重傷を負わせたという傷害事件から、被害者が亡くなられたという事で傷害致死への疑いと発展してしまいま

したが、背景や動機は解明されていないとはいえ、18歳の命と夢が突然断ち切られたというまことに悲痛で悲惨な事件でありました。

また、このたびの事件の発生は、昨年発覚した大津市のいじめ自殺問題が社会問題化して、子供たちが抱える友人関係や、それを取り巻く社会や行政、学校教育機関にも大きな批判が寄せられていたときでもあり、私たち長井市民にとっても大きな衝撃として受けとめられました。

これより以降は、通告しております質問に従って行うものですが、このたびの事件の真相解明とは別に、4年前まで中学生だった加害者の少年たちになされた教育や、教育環境に思いをいたしながら、教育委員長並びに教育長にお尋ねをいたします。

初めに、先ほど例に出しました大津市におけるいじめ自殺問題に対する長井市教育委員の方々の見解、認識を伺います。

子供たちがみずからの命を絶つなどということは教育の現場では決してあってはならないことですし、また自殺の原因が教育現場にあったということもあってはならないことであります。教育や学校という存在そのものが否定されたに等しいくらい重大な問題であります。長井市教育委員の方々はどのようなご所見をお持ちか、教育委員長に伺います。

次に、市内の小中学校において、児童や生徒の間で起こっているかもしれない、いじめやいじめにつながりそうな交友関係の把握は、ふだんはどのように行われているのかお聞かせいただきたい。あわせて、もしもそのような関係が発見、あるいは情報提供があった場合、具体的にどのような対策をとるようにしているのかもお答えいただきたいと思います。

教育とは、子供たちに社会をよりよいものに変えていってもらうためになされるものであり、そのために子供たちには健康的なというただし書きはつきますが、批判的な精神であるとか懐

疑的な思考を持って、社会と対峙しながら成長することを支援していくことが重要と考えております。そのためには、時には私たち大人が屈強で厚い壁となって、子供たちの前に立ちほだかるすごさを持ち合わせていなければならないことでしょう。

しかし、近年の教師の中には、まるで友達感覚で子供たちに寄り添うことが子供たちの心理を理解できるような感覚に陥っている方もおられるようではありますが、子供たちにとって範とならない教師は、ある意味、子供たちの求心力、信頼を失うことにもなり、学級経営や学校経営のていをなさなくなるおそれがあると考えております。子供たちへの寄り添い方をどのように考えておられるか、教師と子供たちの関係をどのように捉えておられるか、お伺いします。

次に、家庭と学校、地域の関係について伺います。家庭教育の重要性については今さら申し上げませんが、プライバシーの保護の観点から、近年は家庭と学校との実質的な距離が離れてしまっているという感じもあります。これは、地域の中においてでも同様であります。俗に言う心配のある家庭に学校がどのようにかかわって子供たちを健全に育成していくのか、また、地域の住民がどのように問題を抱えた家庭やその家庭の子供に接していけばよいのか、お考えをお聞かせいただきたいと思っております。

コミュニティの崩壊は、人が人にかかわらなくなったことも原因の一つであるでしょうし、今後、長井市において地域計画を策定するに当たっても、人が人にどのようにかかわり、どのように信頼関係を構築していくべきかということは重要な課題でありますし、ましてや子供たちに地域を預ける時が必ず来るわけですから、子供たちの育成には学校と地域の協力が不可欠であります。地域の教育力を地域だけの責任にしてはなりません。子供たちがそこにいる以上、信頼できる教師と学校がかかわっていくべきと

思っております。

質問項目には上げておりませんが、お許しいただいて、教育長に1点、お伺いしたいと思います。

第51回の少年の主張大会長井地区大会が昨日、北中学校を会場にして行われました。西置賜から6校参加しまして、13名の生徒がそれぞれの意見の発表をされたと聞いております。けさの山形新聞、朝刊の紙面にもその様子が載っておりました。教育長は審査員5人のうちの1人としてその場に参加してくださったはずですが、残念ながら、情報では欠席をされたということでもあります。教育長には感想なども含めてお伺いしたかったのでありますが、欠席の理由と代理出席がかなわなかったのか、その辺もあわせてお答えいただければと思います。

次に、教育問題から離れまして、市長にお伺いいたします。国内外の都市交流の事業について質問をさせていただきたいと思っております。

市長はことし2月にタイ国のポン市を訪問されました。ポン市の関係者は、以前より長井市が取り組んでおりますレインボープランを学び、地域内での新しい農業のあり方や環境保全のあり方、そして地域経済に循環の仕組みを取り入れた地域づくりに取り組んでおりまして、長井市が提唱しております循環型地域社会を実践している、いわばタイ版のレインボープラン実践地であります。今後、ポン市とはどのような交流をされるおつもりか、お聞かせください。

次に、7月10日から17日まで、ドイツの姉妹都市、バート・ゼッキンゲン市を視察研修で訪問されたわけですが、研修の成果はどのようなものだったのか、ぜひお聞かせください。

私も99年に漆工芸の作品の個展というチャンスに恵まれて、約1カ月弱、バート・ゼッキンゲン市に滞在しておりました。ドイツの暮らしを体験させてもらって、そのときの体験が今の私にどのように役に立っているかはうまくは言

えませんが、市長におかれては、今後の長井市の発展にとってよい成果を得ることができたと、ぜひ上手にお話しただければと思っております。

続いて、昨年長井市を訪問していただきました中国の友好都市であります双鴨山市との交流について伺います。

昨今の日中間の関係は、領土問題をはじめとする外交課題や商標権なども含む通商課題など、一朝一夕には解決できると思われない課題が山積をしております。このような中であって、長井日中友好協会のような民間交流のあり方と、行政機構同士の交流のあり方を今後どのように進めていくべきか、思想や統治機構が全く異なる中国に対して、日本政府は戦略的互恵関係という言葉を使って関係を構築しようとしておりますが、長井市はどのような戦略を持って互恵関係を今後結んでいけばよいのか、お考えをお聞かせいただきたいと思っております。

次に、国内の都市交流の課題について伺います。茨城県の結城市とは姉妹都市の縁を結んでおります。しかし、昨今はその交流が滞っているように感じておりますが、今後の具体的な交流の形を示していただければと思っております。

また、フラワー都市でつながっております国内各市との交流も、各都市持ち回りで行われております総会の折に、市民訪問団を仕立てての表敬訪問に近い形式的な交流にとどまっているような感も否めないのがありますが、各都市の物産をお互いに紹介し販売するであるとか、例えば長井市を訪れてくださる各フラワー都市の市民には宿泊代や飲食代の割引があるとか、互いの物産や人の交流が促進されるような通年を通した施策もあってよいと思っておりますが、市長の考えをお聞かせください。

長井市は今、観光で訪れる方も含め、外部からの人の流入を望む施策を検討しておりますが、同時にそれは、ほかの交流都市でも同じであり

ましよう。せめて友好都市としてえにしのある市民同士が互いに訪れやすくなる環境整備を図ることが肝要と考えております。

いずれにしても、外国であれ国内であれ、物産や人の行き来を高める工夫がなければ、姉妹都市や友好都市はやがてお荷物となり、負担感ばかりが増加してしまうことであらうでしょう。それぞれの地域が持つ風土や文化、歴史を土台とした、いわゆる文化交流は民間団体でも可能ですが、戦略的な発想に立ち、互いに学び、刺激し合い、経済活動においてもそれぞれの地域に新しい風を吹かせるには、これは行政側の関与も必要であると思っております。今後、庁内に都市間の交流の担当者であるとか係を置くなどのお考えはないかということも含めて、これからの交流のあり方などについて所見をお伺いして、壇上からの質問を終わりにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口議員のご質問にお答えいたします。

江口議員からは、国内外の都市交流事業についてのご質問いただきました。まず、基本的な都市交流の状況について、ご説明を申し上げます。ドイツ、バート・ゼッキンゲン市との交流は、昭和58年に姉妹都市の締結を結びましたので、ことしが29年、来年が30年目になります。同じように、姉妹都市である結城市も、これも来年が30年でございます。また、フラワー都市交流、これも58年からスタートしておりますので、これも30年目ということになりまして、長井市の国際、あるいは国内も含めた都市交流というのは30年前ごろから始まったと。当然、その前に数年間にわたっていろいろな人の交流、さまざまな経済的な部分も含めてのつながりがあったということだと思っております。

中国についてはことし20年ということで、双鴨山市から訪問団お越しいただいたわけでござ

いますが、私はまず、都市交流についてですが、皆さんご承知のとおり、平成の、特に10年以降はほとんど議会側からも、あるいは首長のほうも数年に1回、行くか行かないぐらいの交流にとどまってきたというふうに思っています。そういった前提の上でお答えを申し上げたいというふうに思います。

まず、最初、ことし2月に訪問されたタイ国ポン市との今後どのような交流を進めていこうとしているのかということですが、長井市とタイ国のポン市との交流ということについては、平成16年にポン市の市長を含め6名の方が長井市のレインボープランを視察されております。そのレインボープランに感銘されて、平成18年には、同じく市長ほか市議会、市役所の中心メンバー47名が長井市を訪れまして、再度レインボープランを視察するとともに、当時の目黒市長や平県会議員、あるいはレインボープラン推進協議会の方々との市民交流を図ってこられたというふうにお伺いしております。

昨年の12月にポン市長から招待状をいただきまして、ぜひポン市のレインボープランの取り組みを見てほしいと、また交流も深めたいとのご依頼がございました。これはレインボープラン推進協議会でも強い勧めもありまして、レインボープラン推進協議会の方々や仲介をいただいておりますアジア農民交流センターの方々と一緒にポン市を訪問いたしました。私と、それから農林課の職員1名、2名で行ってまいったところでございます。

ポン市では、レインボープランで学んだ環境に優しい農業、循環のまちづくりを進め、小規模な堆肥センターや、あるいはごみ銀行等も立ち上げまして、環境に優しいまちづくりが進められておりました。

特に私が印象に残った視察先っていうのは、ほとんど農村と農場ばかりでした。もう観光は1分たりともありませんでしたけれども、か

なりハードスケジュールでして、ちょっとダウンしそうになったぐらいだったんですが、まず、朝市をやっておられました。この朝市は農家の方々がそれぞれに持ち寄って市を開くということを、毎週定期的になさっていると。週に2回、3回なさっているということで、これすごいにぎわいでした。

多くの人たちが買い物に来て、市民が来てたわけですが、やっぱり歴史的なものを学ばなきゃわからないっていうふうに改めて思ったのは、なぜ朝市を開くことによって今まで大変だった農家の方が、朝市を開いたそのお金で子供を大学まで出せたのかっていうところが理解できませんでしたが、いろいろ話を聞いたところ、やっぱり農業に頼った農業でずっとやってきたと。その農業も非常に日本では使えないようなきつい危ない農業をたくさん使って、そして土がかなり疲弊したと、そういったこととかいろいろ話すと長いんですが、そういったことを学んできましたし、あとおもしろいなと思ったのは、農家の方が20名ぐらいで共同の農園をして、自分のエリアを持っています。そこを全く化学農薬、化学肥料を使わないでやってたと。ですから、それぞれ虫を寄せつけないようなハーブを植えたり、あるいは木さく酢みたいなのあいう、あるいは薬草の農薬、農薬と言わないのかもしれないですけど、そういうものをつくってやってたと。これはなかなかおもしろいなと。あのようなタイの気候でもできるんだから日本でもできるんじゃないかなというふうなことで、非常に私も興味は持ってきましたが、やっぱり一番の課題は言葉がほとんど通じないと。ホテルでも片言の英語でもほとんど通じないぐらいでして、言葉の壁があったなというふうに思っておりますが、国民性は日本人と非常に似ておまして、誰もが常に笑顔で迎えてくれるほほ笑みの国であったということ。

あと子供のころから伝統文化、芸能を大切に

しております、夜の9時ぐらいまで小学生が武芸をして見せるんですね。キックボクシングを見せていただきましたし、あとタイの踊り、子供、女性の踊りとかもを見せていただきましたけども、そういったところで非常に似通ってますが、また日本とは違いますけれども、やっぱりタイのような国々とは日本人として、あるいは我々の子供たちにもアジアとのつき合いというのは非常に大切ですので、学ばせたいなというふうに思ったところでございます。

今後についてでございますが、ことしの2月にお邪魔したんですが、2月は乾季ということで雨が全く降らないものですから、非常に視察等にはいいということであります。ぜひことしは議会とか、あるいは市の職員とか市民とかっていうふうに思ってますが、来年度で考えていったらいいのか、あるいは来年の2月にもしかしたら市民の交流団とか、あるいは市議会からとか職員からしていったらいいのか、その辺は予算の兼ね合いもありますので、いろいろ検討したいと思いますが、私としては物流とかそういったものはちょっとタイは難しいだろうと。

かなり日本企業進出してしておりますが、例えば、向こうから、向こうは日本に対して非常に興味を持っておられますので、市の職員をこちらで1年間研修として受け入れるとか、そういったことをして、あとぜひ長井からタイに、市議会も含めて行っていただいて、ぜひ向こうと交流することによって日本の今後の、例えば長井市の今後のアジアとのかかわり方っていうのはいろいろ学べるんじゃないかなと思ったところで。

次に、バート・ゼッキンゲン市のまちづくり研修の成果はということでございますが、私も就任して5年目、去年中国に行かせていただいて、ことしドイツとかタイに行かせていただいたということで、何かにはわかにぼぼぼと行かせていただいて大変恐縮だったんですが、やは

りこれからは人材育成とか、あるいは経済的な直接的なプラスとかマイナスとかそういうことではなくて、将来国際化を進めていく上での人材育成という視点から、あるいは我々行政、あるいは議会の皆さんは、今後、長井市のまちづくりのためにどういうふうな方向性を考えていったらいいかということをお学のために、ぜひ多くの人に交流してもらいたいなと思っております。

特に、ドイツについては、EUというのを改めてすごい仕組みだなというふうに思いました。通貨は全部通じるわけですから、EUに加盟してない国は、一部フリーっていうわけじゃないところもありますけど。EUの場合ですと全部同じユーロでできますし、あと入国、出国なんて一々する必要ないわけですね。ですから、自由に国境を歩いて渡れるわけですから、これ、考えられないですね。我々日本ではちょっと考えられないものですから、その中でドイツはやっぱりひとり勝ちしてるわけですね。そういう意味で、いろいろ聞きますと嫌われてるところもあるんだそうです。

しかし、非常に合理的で、彼らは、例えば今から20年前はいわゆる東ドイツと合併して非常に苦しんだわけですね。それを乗り越えて今の繁栄があるわけですし、あときょう先ほどまでありました東芝ライテックの話なんかもですが、ドイツなんかでは工場閉鎖ってないんですね。海外に工場が出ていってないんですよ。その辺のところはやっぱり、TPPっていうのは非常に問題あるんですが、将来TPPっていうのは同じ経済圏の中で、結局EUみたいな仕組みをつくらうとしているのか、あるいはどっかの国がひとり占めしようとしてるのかわかりませんが、そういったところも含めて、我々も勉強するところたくさんあるなというふうに思いました。

あと、特にドイツの人たちの合理的な考え方ですね。まちづくりにしても都市計画にしても、

あと多様な考え方、文化を取り入れるっていう考え方ですね。ですから、そういったところを、私もそんなにドイツの人としょっちゅう話したわけじゃないし、大体ドイツ語を話しできませんので、内谷市長の英語は全然だめだっていうふうに言われましたけど、私全然だめですが、やっぱりそういうふうにして交流することによって得るものがたくさんあると思いますし、これを今まで市議会などもいろいろ批判があつて海外視察とかしてないですね。でも、これからどういうふうに進めるかっていうことをやはり議論すべき時期に来てるんだろうというふうに思ってます。

ちなみに、来年はバート・ゼッキンゲン市をお招きするという事で考えております。

あと、今回、特にバート・ゼッキンゲン市の研修で非常に成果がありましたのは、市民公募で若い年齢層の市民が3名参加いただきまして、積極的にバート・ゼッキンゲン市のまちづくりの事業を研修いただいたということ、それからいわゆる旅費の伴わない研修という扱いで、義務免扱いで市の職員も5名ほど連れてまいりました。そういった部分は、経費は自分で持ったわけですが、非常に彼らにとっても勉強になりましたし、将来の長井市の行政運営にも必ずプラスになると思います。ぜひそういった意味で、直接的に経済のつながりっていうのは難しいところがあるかと思いますが、さまざまなスポーツ交流とかあるいは文化交流、あるいはそれぞれのまちづくりを学ぶということでのメリットっていうのはたくさんあると思います。

最後に、海外では中国の友好のあり方があるわけですが、これはことし双鴨山市でお越しいただきました。長井日中友好協会の皆さんにも大変お世話になったわけですが、日本と中国とさまざまな課題を抱えておりますが、やはりそのところはいろいろ険悪な状況も生まれるかもしれませんが、国とのつき合いと我々民間で

の、地方の自治体とのつき合いっていうのは、また別に考えていくべきだというふうに思っております。

双鴨山市に行った感想は、蒲生議長もドイツも双鴨山市も一緒に行かれたわけですが、どういふふうと考えられたかですけれども、やっぱり国の仕組みが全く違いますので、正直なところ、余り勉強にはならない。ただ、反面教師みたいのはあるかもしれません。それと、中国の方っていうのは、びっくりするのは何でも関心を持っていると、日本のことは貪欲に学ぼうとする、そういう意識が、全て会った人は全てそういう人だったなというふうに思ってます。ですから、中国がやはり今、非常に勢いがあるっていうのはそういうところだろうなど。

ただ、去年双鴨山市に行ったときとことしお越しいただいたときと、ちょっと何か違いが少しありまして、今回いらしたときは、随分自分たちに自信が持てるっていうか、誇りっていうか、それを感じました。ですから、そういう意味では、中国も日本と対等につき合うという意識が生まれてきてますので、今までは何か吸収しようという意識が強かったのかもしれませんが、そういった意味では、従来から市内とかこの地域には中国出身の方が多いわけですから、そういったことも含めて、同じアジアの中国とか、あるいは韓国、タイとか、そういったところをこれからいろんな形で一緒にこの地域の繁栄を築いていくんだというつもりで、やっぱり交流をするべきだなというふうに思いました。

長くなって恐縮です。最後に、国内の都市交流でございますけれども、姉妹都市の都市交流でございますが、先ほど言いましたように、来年が30年ということですが、私も市議会議員をさせていただいたときに、ちょうど1期目の終わりぐらいに常任委員長が1年置きに交代で行くというので最後で、あと議会からは多分、こ

こ10年ぐらい全く結城市に行っていないと。結城市からは1回ぐらいいらしたことがあるかと思えます。ただ、結城市の市長は毎年長井市にいらしています。私は2回ほど、ついでに回らせていただきました。去年は「祭りゆうき」っていうのにお招きいただきまして行ったんですが、その前は何か出張のついでに訪問したということでした。

結城市は、やっぱり長井つむぎと結城つむぎのつながりだったんですが、残念ながら今、つむぎ自体が長井市としても、結城市のはまだ頑張っておられますが、つむぎ組合そのものがもう解散のような状況になってますので、非常にそういった経済面とかつむぎつながりというよりも、もう少し発展させなきゃいけないというふうに思っています。かつては市民号みたいなもので、バスを仕立てて市民同士が結構行ったり来たりした、議会も行ったり来たりしたということですので、ぜひ来年あたりから、30周年を記念としてそういったことをやっていくべきじゃないかと。

結城市は長井市と似てるところがあります。城下町なんですけど、もともとは。町の真ん中がやっぱり古いシャッター街にいっぱいなっていて、ただ、交通の立地がよくて高速道路も新幹線も近いですし、小山市が近いわけですから、そういった意味では長井市よりもずっと有利ですけども、いろいろ学ぶ点があるし、これからは市民との交流で、例えば結城市のこういう商品が長井市もまねしてつukれないかとか、ぱくるわけじゃないんですけどもそういう考えでやったほうが良いと思いますね。長井市のものを向こうで売ったり、結城市のものを長井市で売ってということは今もあやめまつりの時期とかイベントのときやっておりますが、これを発展させて、やっぱりいろいろ学んでいくべきだなと。食文化も近いものがあるというふうに思いました。

最後にフラワー交流都市については、これ全国、最初は五つぐらいの都市で、今は9都市ですけれども、これPRでいろんな面で着実に広がってるんだというふうに思います。ただ、最近はこの市町村も旅費等の経費が削減されてるものですから、前は毎年総会の前に東京とか大阪でPRの展示会なんかやってたんですが、今そういったことをしてません。しかし、それなりにやっぱり取り上げられておりますんで、フラワー交流と申しますと、マスコミもある程度取り上げてくださいます。そうしますと、その中であやめの長井、山形県の長井ということで必ず新聞とかテレビ等出ますんで、そういったことはずっとここ30年続けてるっていうことの効果は大きいんだと思います。

あとこれからの効果としては、交流団の方々が高齢化しておりますんで、やっぱり来年は富山のチューリップの砺波市ですんで、これは近いですので、ぜひ市民号みたいなものを、やっぱり交通費をある程度市のほうで支援するというような形で、やっぱり今まで交流したいという人がなかなか高額で参加できなかったところもありますんで、来年からそういったことをしながら、それぞれの観光とかまちづくりの取り組みを市民の皆様とともに学んでいくということが必要なんではないかなと思っております。以上でございます。

○蒲生光男議長 加藤弘二教育委員長。

○加藤弘二教育委員長 江口忠博議員の質問にお答えいたします。

大津市におけるいじめ問題に対する見解の前に、議員が冒頭に述べられました7月に長井市内で起きた18歳の少年たちによる集団暴行死亡事件について述べさせていただきます。

午前中の市長、教育長の答弁にもありましたが、このたびの事件は、議員が申されましたように極めて残念で悲しい出来事でありました。最愛のご子息を亡くされましたご両親をはじめ、

ご遺族の皆様のご悲しみはいかばかりかとお察しいたします。亡くなられました横山湧さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

議員からございましたように、新聞報道によりますと、被害少年は長井市内の中学校出身であり、加害者の1人が同校で被害者と同じ学年だったということでもあります。このことは、まことに残念なことであり、教育委員会としましても重く受けとめております。

長井市内の小中学校では、平成16年より、平和を愛し、共生の心を育む「長井の心」の教育に取り組み、平成17年度からは山形県の命の教育にも取り組んでまいりました。今回の加害少年の行為は、自分の命とともにみんなの命を大切にするという長井の心に全く反する行為であります。かけがえのない命を奪うという暴力行為を、なぜ踏みとどまることができなかったか。また、10人前後の友人、先輩、後輩がいたにもかかわらず、なぜとめることができなかったと思うと痛恨のきわみであります。このような不幸な事件が今後二度と起こることがないように、これまで進めてきた長井の教育について改めて振り返り、今後どのようなことを求められるのか、教育委員会としてしっかりと考え、学校現場と一緒に取り組んでまいりたいと存じます。

次に、大津市におけるいじめ自殺問題に対する長井市教育委員としての見解、認識についてお答えいたします。

大津市の事件を受けて、7月定例教育委員会できじめ問題を取り上げ、意見交換を行い、改めていじめ防止について指導内容などを確認したところでございます。大津市の事件は、議員のおっしゃるとおり、あってはならないことであり、管理責任のある教育委員会のあり方が問われる重大な問題であると捉えております。自殺にまで追い込まれた生徒のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族のご悲しみはいかばかりかと

お察しいたすところでございます。

テレビ、新聞報道でしかわかりませんが、まず、いじめは絶対に許さないという学校の姿勢の弱さ、そして事の重大さを認識できなかった校長の判断の甘さなどが最悪の結果につながったのではないかと思います。校長の判断に至る日々のさまざまな情報収集、現場の状況把握なども不足していたのではないかと考えられます。特に、自殺6日前のいじめ情報に対する学校側のずさんな対応などは理解に苦しむところでございます。

また、学校から報告を受けた教育委員会が的確な指示をしなかった責任も大きいと思います。特に、自殺後の徹底的な事実解明を怠った教育委員会の責任は、極めて大きいと考えます。教育委員会の中で事務局の結論をうのみにしたのではないかとと思われる教育委員一人一人の責任も、厳しく問われると思います。

保護者に対する情報開示をしっかり行い、信頼を得て、学校、保護者が心を一つにして解決していくという連携のあり方にも問題があったのではないかと考えられます。学校現場の問題として考えられることは、学校全体がいじめは絶対に許さない、自分がされて嫌なことは絶対にしない、いじめを見ても何もしない、嫌なことを聞いても何もしないということはひきょうなことであり、同罪であるという雰囲気、校長、職員、生徒、保護者が一体となつてつくっていくという、そういうふうな学校経営を行っていたのかどうかということも疑問であります。

してはいけない、言うてはいけないことを校長や担任が全校生徒の前や学級の生徒の前で日常的に、そして具体的に指導していたのかということも大変心配であります。校長をはじめ、教職員が、生徒の登下校、授業中、休み時間、昼食の時間、部活動中での表情を観察する目をしっかり持っていたのか。特に心配な生徒のサインに気づく教職員の姿勢に問題があったので

はないかと考えられます。

大津市の事件は、学校も教育委員会も信頼という教育の根幹を根底から失ってしまった出来事であり、教育委員一人一人にしましても対岸の火事とせずに、また教育委員会が形骸化しているのではないと言われることのないように、いじめ対策をはじめさまざまな課題にしっかり取り組んでまいりたいと存じます。

以下の質問に対しては、教育長より答弁いたします。

以上で私からの答弁を終わります。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 初めに、議員からありました昨日の少年の主張大会の欠席のことについて申し上げます。

結果として会場の審査員席に穴をあけてしまったということ、大変申しわけないなというふうにあらかじめ陳謝したいというふうに思います。大変申しわけありませんでした。一生懸命弁論する子供たちを、その様子を見られなかったこと、私も残念ですし、そのようなことでのいろいろな関係の方々にご心配をかけたというのは大変不徳のいたすところだなというふうに思っております。今後、気をつけたいというふうに思います。

ただ、その経緯について申し述べさせていただきますと、依頼を受けましたのが8月の初めだったと記憶しておりますが、そのときにちょうど議会の日程が出ておりました。ちょうど一般質問の前の日ということでいろいろな打ち合わせ会議が予測されましたので、審査委員長は受けかねるということでお断りした次第でありました。それで、私としてはそれで終わりかなというふうに思っておりましたが、その後、代理の依頼等もなかったものでしたので、大変結果として申しわけなかったというふうに思っております。

さて、私のほうからは、続いて議員の質問に

お答えいたします。

いじめ発見のための学校の取り組みについてお答えいたします。

今年度のいじめに関する定期調査報告によりますと、市内の1学期間のいじめの報告案件は、市内の小中学校でゼロ件でございました。各校ではいじめを早期に発見できるように日常的に頑張っております。具体的に申し上げますと、心のアンケートとか生活アンケート、学校によって呼び名は違っておりますが、定期的にアンケートをとって子供の悩み事や困っていること、そういうものを把握しております。それから、市内どの小中学校でもやっているのが、Q-Uアンケート、これはクエスチョネリア・ユーティリティーズっていう、その略であります。楽しい学校生活を送るためのアンケートということですが、それによって、学級の中で子供の心の状況を把握して対処しているということでもあります。

そのほか、定期的な教育相談、あるいは随時の教育相談を実施して、子供の心を把握しております。そのほか、学級日誌でありますとか、班ノート、あるいは個別のノート等から子供の変化、それから何よりも子供の表情の変化から情報を集めているというふうに認識しております。

その中で上がってきた緊急性のある事案については、即どの学校においても対応するようにしております。それだけでなく、次の一手委員会などと呼ぶ学校もありますが、生徒指導にかかわる担当者会議を週1回程度開催し、気になる子供についての情報交換、あるいは本人からの訴えとか周りの子供たちからのいじめに関する情報がなくても、児童生徒の困った様子とか心の悩みについて早期に対応できる体制を整えております。悩みや不安を訴える児童生徒の対応としては、さらなる情報収集、学校全体での教育相談体制づくり、養護教諭、そしてスク

ールカウンセラーの活用や家庭訪問など保護者との連携による解決を目指しております。特に重要な案件が発生した場合は、市教委と相談して対策を進めるというふうになっております。

なお、教育委員会でもお話し合いがありましたように、8月に市の校長会があった折にいじめに対する学校の取り組みについて話し合いました。そこで確認し合ったことは、いじめは絶対に許せないものである、もう一つは、いじめはあっても非常に見つけにくいもの、いじめはあっても見つけにくいもの、そういう認識を持つということでありました。ふだんの教育活動の中で、いじめを防止する日常的な指導を積み重ね、人の嫌がることはしない、人を傷つける言葉は使わないなどの具体的な指導を行うことや、いじめは教師の見えないところで起こりやすい、そういう危機意識を持って、いじめに気づく感性と情報を得る心のアンテナを高く持つようにお話をしたところであります。いじめ問題を真摯に受けとめ、今後とも学校内外を通じていじめを含めた子供たちの悩みや困り感に寄り添った指導を心がけていきたいと思っております。

次は、教師と子供たちの関係が友達関係になってはいないかということでございました。教師と子供の間には適切な間が必要だと思っております。議員ご指摘のように、友達関係でとどまっている先生が世の中に皆無とは言えないところもございます。しかし、長井市の先生方は適切に子供の指導に当たっていただいていると認識しているところでございます。

子供に寄り添い、子供の心を共感的に受けとめることは生徒指導の基本であります。その上に立って、そこから子供自身にあるべき姿を考えさせていくこと、子供自身が答えを見つけていけるよう導いていくことが教師として求められることでもあります。議員ご指摘のように、子供にしっかりと向き合い、人間として、しては

いけない行為を許さない毅然とした教師の態度こそ大切なものであると思っておりますし、そういった行為を見逃すことは子供を見捨てることに等しいと先生方にいつもお話ししておりますし、今後もお願いしていきたいと思っております。

最後に、家庭教育の重要性が叫ばれている中、学校や地域住民がどのように家庭や保護者にかかわればよいかというご質問にお答えします。

学校現場では、議員がご指摘のように、心配な家庭へのかかわりが大変大きな課題となっております。過干渉あるいは放任と、子供へのかかわりが極端なご家庭もありますし、子供が問題を起こしたときの親の対応がその後の成長を分けることが多いと感じております。ともに喜び、悲しみ、善悪の判断をきちんと態度で示す親御さんや、時に優しく、または厳しく育てられた子供たちは、たくましく、かつ心優しく成長するようであります。

残念ながら、子供の行為も行動の裏側にある心も受けとめることができずに他者に責任転嫁してしまうご家庭の例も見受けられます。やはり、親自身も迷っているのかなというふうに思っています。

学校では、PTAの活動を通じて、子育てについての研修会を行ったり、個別に子育ての相談に乗っております。また、教育委員会の中にも子育てに関する相談の窓口を設置して対応しております。また、スクールカウンセラーなどに相談していただくこともあります。スクールカウンセラーは中学校二つに今、派遣されておりますが、職員でないという中立の立場で保護者も子供も心を開いて相談できるよさがあると思っております。地域の中にも学校と保護者の間に立って、子育ての問題などの相談に乗ってくれる方がいればありがたいのかなというふうに思っています。さまざまな地域行事を通してのかかわりは大変貴重で、「どこそこの家の息子が」と、「大きくなったな」と、「おまえはあそこ

の家の娘が」と、「いっつも元気に挨拶してきていいな」と、そんな話題や声かけが地域で子供を育てていくのだと思っております。

学校、家庭、地域の連携という視点で、子供の健全育成を推進していく方策は大きな課題でありますし、これからも検討していかなければならないことと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上で答弁を終わります。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 答弁ありがとうございました。

さきに教育長、教育委員長のほうにお伺いしたいんですが、今、教育長のほうからスクールカウンセラーの配置ということの答えございました。その中に、スクールカウンセラーの相談というのは、中立的な立場で子供たち、あるいは保護者の話を聞けるのだというよさをおっしゃいましたけれども、いろいろ考えますと矛盾がありますよね。というのは、学校の教師が本当に子供たちから話を寄せてもらえる存在でなければならないのに、あえてスクールカウンセラーを置いておかなければいけないというのは、教育機関とするとやはりどこかぎくしゃくしてるというか、本当に子供たちと学校、教師との関係性がきちっと構築できてない一つの証であるというふうにとられると思うんですが、実際、この大津の問題を受けて、この7月の定例教育委員会でお話が出たと。教育委員会としてもどのようにいじめ問題に対して対応していくのかというような共通の意思決定がなされたと思うんですが、ぜひそのことを広く市民の方々にもメッセージとしてお伝えしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○蒲生光男議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 ご質問ありがとうございます。

初めに、スクールカウンセラーのことで、教

師と子供の中に溝がある証でないかというご指摘、質問がありましたけれども、そういうことではなくて、非常に子供たちは今、ストレスをたくさん抱えておまして、親にも話ができない、あるいは先生にも、本当は、アンケートなんか出すときに、誰に相談したいですかということも書かせたりするわけですが、その中に先生へ相談すると、もちろん数多くあるわけですが、スクールカウンセラーへの相談というのもの中にはあります。あるいは、こちらで、あの子の表情悪いなという、非常に変わってきたぞという危機意識を持つ子供さんもいます。そういうときに、積極的に相談してみたらっていうことで学校側から勧める例もございます。

大津市の事案を受けて、事件を受けて、文部科学省では全中学校にスクールカウンセラーを配置するという方向性を出したようでありますけれども、長井市ではどちらの中学校にも既に配置になっておりまして、大変ありがたいなと思っております。

それから、いじめ問題の方針としてということで、このことについてもっと市民にということでありました。当然、保護者に対して、学校を通じてお願いもしていきたいと思ひますし、あと私は子供自身に考えさせていって、いじめをなくしていく運動みたいなものをぜひ進めていきたいものだななんていうふうにも考えております。以上であります。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ありがとうございます。

私はぜひ長井市民全員にこのいじめの問題、つまり、今の教育環境全般についてでもいいんですが、こんなふうな考え方で教育界は子供たちに臨んでいると、あるいは接していると、こんな地域をつくっていくんだという、で、こういった子供たちをつくっていくんだと、そのためにはひきょう者というそしりを免れないであろういじめとかそういったことは決して許さない

んだということを、社会の全体の、やっぱりムーブとしてこれからつくっていかなくちゃいけないと思うんですね。ですから、ぜひ、長井市民の方々、市報の中に挟み込んでもいいんですが、ぜひご検討いただきたいと思います。

やっぱり学校と地域がこれからどんなふうにかかわっていくかということが、多分まちづくりの中でも大きな、これはテーマになってくるだろうと思います。ここのところをおろそかにしていると、いつまでたっても真摯な議論ができない、あるいは真剣な議論ができない地域になってしまうのだと思うんですね。昔のような、昔よかったよね、この地域は、このコミュニティはとっておじいちゃん、知らない人からしかってもらってなんていうことが、よくそういうことが言われますけども、昔のよさばかり今言ってもどうしようもないので、今現実としてどう対処していくか、対策をとっていくかということができませんと、やはり第2の天津ということが出てくるだろうと思います。

もう10年前にも東京あたりでもいじめ自殺がありまして、そのころから連鎖的にいじめがもとの自殺する中学生、小学生もいたんですね。そこから考えますと、あんまり社会は反省を根本的にしてなかったということもありますので、二度とこういうことがないという決意のもとであれば、今までやってなかったことでもやらなくちゃいけないと思いますので、ぜひメッセージは最低でも市民の方々に強いメッセージを教育者として出していただきたいというふうに思います。

それから、市長のほうに伺いますが、都市交流についてであります。時間も余りないので、簡単にお聞きしますけども、この質問の中にも述べましたけれども、どうでしょうか、例えば、砺波の市民の方々が長井に来られたときに、いろんなサービスをしてさしあげる、これはほかの一般の砺波以外のところから来られた観光客

の方とは違った特典をつけてさしあげるというようなことも、私は総合的にはそういったこともサービスのし合いってということも必要なのかなという気がするんですね。砺波市の方々が、例えばサクランボ狩りに、長井市というところをよく知らないで近所まで来たと、でも、砺波市役所で聞いたところによると、長井市というところはこういったところがあって、こういったサービスも受けられるんだよなんていう情報を知ったがためにわざわざ長井市に足を運ぶということもあろうかと思えますし、その辺、通年を通して交流関係を結んでいる都市であれば、特典つき交流みたいなどころも財政的な支援もしていただきたいと思うんでありますが、その辺は今後可能性があるかどうか、一言お願いいたします。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

先ほど、答弁でも抜けておったんですが、例えばそういう交流の担当窓口などについては、今、いただいたご提言なんかもそうなんです、観光振興課だけでいいのか、例えば、観光協会、あるいは農林課とか企画調整課とか、そういうかわりがあるんじゃないかって、主管課はあるんですが、かなり交流は多岐にわたっておりますので、窓口を一本化するということも含めて体制をそろそろ考えていかなくちゃいけないと思っております。

ただし、業務でいっぱいいろんなところを強化しなくちゃいけない中で、人がどうしても足りないものですから、そこについてはある程度時期を見てということになると思いますが、考えていきたいと。

あと、ただいまの件については、例えば商工会議所なんか、あるいは市のほうと観光協会と一体となって、このチケットを見せれば10%、5%引きだよってというような、あるんですね。これはそのチラシを見てフリーに訪れるわけで

すが、あとはそういうフラワー交流都市とかそういう方々が回ってきてくださったっていうことで、向こうと協定を結んでこういうサービスをするということをやすることは可能だと思います。ですから、そういった仕組みづくりも考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ありがとうございます。ぜひ前向きに検討いただければと思います。

そして、最後ですけれども、バート・ゼッキンゲン市の近くにドナウエッシンゲン市というのがあります。上山市との姉妹都市を結んでいるわけですが、上山市のホームページを見ますと、ドナウエッシンゲンのことは本当に詳しく載っております。ドナウエッシンゲン市の政策から教育、文化、環境まで、常にフレッシュなニュースが出てくるわけですね。これから長井市のホームページもいろいろ改訂をされる予定と聞いてますけれども、都市間交流のこうした情報というのをぜひフレッシュな情報を更新していただきながら、新しいページを開設していただきたいものだと思います。これが長井の市民の方々にとって、あそこと交流してるんだっていう、ふだんから実感することにもつながると思えますので、ご検討いただきたいんですが、最後に一言。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ご指摘のとおり、長井市のホームページはかなり前よりはよくなりましたね。3年前ぐらいでしょうか。今回、これではだめだということでもまた新たにリニューアルするわけですが、それと同時に、リニューアルしてもやっぱりタイムリーな、その都度その都度のきちんとしたケアが必要で、その部分がちょっと弱いような気はいたしますので、そこも含めていろいろPRに、そして研修の成果をきちっと報告したいというふうに思えます。ありがとう

ございました。

○蒲生光男議長 江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ご答弁いただきまして、ありがとうございました。

これで質問を終わります。ありがとうございます。

竹田博一議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位5番、座席番号6番、竹田博一議員。

(6番竹田博一議員登壇)

○6番 竹田博一議員 よろしくお願ひします。通告しております3点について、順次質問をいたします。

最初に、平成25年度から伊佐沢小学校が複式授業になることについて、質問いたします。

いつかは複式になるだろうと予測していたことが現実になり、私自身、悲しい気持ちであります。複式授業の問題では、過去2回ほど一般質問させていただきました。教育委員会の予測では、25年度が2、3年生が複式になると、そして、26年度は3、4年生が複式となると。そして、27年度は2、3年生と4年、5年生が複式になると。それから、28年度は3、4年生と5、6年生が複式になりますと。その後も複式になる学年がずっと続くと思われまます。

一方、ほかの地区を見てみますと、長井小学校は全くその心配はなく、その他の地区においても15年間以上は複式になる可能性はなく、安泰の状態であります。今後、伊佐沢小学校だけが15年間以上にわたって我慢しなければならないのでしょうか。教育は差別なく平等に受けられることの重要性を思うとき、その観点からも真剣に考える問題ではないでしょうか。

そして、長井市小学校将来構想では、今後、